

米田泰章 BRZ、1本めで逃げ切ってシーズン初優勝



「BRZに乗り換えて4年目の最終戦。クラッシュもありましたが何とか出場して勝てました」。PN2は米田泰章選手がヒート1のタイムで逃げ切った。

2018年10月7日、福岡県福津市のスピードパーク恋の浦のジムカーナコースにおいて、JAF九州ジムカーナ選手権第9戦／JMRCオールスター選抜第9戦「スプラインチャレンジジムカーナ2018」が開催された。

2018年は台風の発生が多く、前週に予定されていたジムカーナ走行会は台風24号の影響で中止。この週末も台風25号が対馬海峡を通過したため開催が危ぶまれたが、幸い前日には日本海へ抜けて、この日は朝から台風一過の青空となった。

九州ジムカーナ選手権は全9戦中8戦が終了し今回が最終戦だが、既に多くのクラスではチャンピオンが決まっており、今回チャンピオン争いが持ち込まれたのはSA1クラスのみ。既に

タイトルを獲得した選手のエントリーもなく、成立したクラスは5クラスのみで、その他にはオープン(OP)と恋の浦カップ(K-CP)クラスの2クラスの計7クラスに34台のみという少々寂しい参加台数だったが、ゆったりとした雰囲気競技が続いていった。エントリーの多くは地元福岡からの参加だが、山口、長崎、大分、鹿児島からの参加もあった。

コースは前半から中盤にかけては非常にハイスピードな設定で、最後のパイロン区間は2つの360度ターンと180度ターンを含むものの、全体的にアベレージが高いコースとなった。コースの路面も競技が始まるまでには完全なドライコンディションとなった。

慣熟歩行、フリーフィングが終わり10時から6台によるB1クラスがスタートした。既に

チャンピオンを決めている池武俊選手が欠場の中、1本目に唯一1分50秒を切る1分47秒974を出した宮本光隆選手(カプチーノ)が、2本目も1分47秒826にタイムアップして2位に4秒の大差をつけて今季2勝目を飾った。

続く5台によるB2クラスもチャンピオンを決めている小石孝浩選手が欠場で、2本目に1分41秒461をマークした菅智資選手(RX-7)が、スポット参戦の影山幸輝選手を0秒544差で振り切って今季2勝目を挙げた。

続く3台によるPN1クラスはこれまでの8戦で6勝を挙げて王座を決めている関岡優季選手が欠場。優勝候補の貞光建選手(スイフト)は1本目にまさかのミス。だが2本目に1分44秒256をマークして今季2勝目を獲得した。

8台と今回の最多エントリーを集めたPN2クラスでは、チャンピオンの奥田圭介選手(別クラスに参戦)とシリーズ2位の山下友秀選手が欠場で、シリーズ3位以下の選手に優勝のチャンスが巡ってきたが、米田泰章選手(BRZ)がヒート1でマークした1分41秒143のタイムで嬉しい今季初優勝を遂げて、逆転でシリーズ3位を確保した。



1. B1クラスで3位入賞の穴見拓章選手。2. B2で3位入賞の加々美一臣選手。3. PN2で3位入賞の田添健吾選手。



4. B1で2位入賞の松尾圭介選手。5. B2で2位入賞の影山幸輝選手。6. PN2で2位入賞の立川博史選手。7. PN1で2位入賞の池口良和選手。8. 「去年に続き最終戦までもつれました。2本目はミスしかけて危なかった。来年は3連覇したいです」。SA1は最終戦を制した井上洋選手がV2を達成。9. B1クラスは2本とも1分47秒台に揃えた宮本光隆選手が快勝。10. 「1本目はやらかしましたが2本目はきちんと走れました」。PN1は貞光建選手が優勝。11. 「僅差で勝つことができました。やはり優勝は嬉しいです」。B2は菅智資選手がシーズン2勝目をマーク。12. SA1の2位は衛藤雄介選手。13. 今回はOPクラスで参戦の奥園圭介選手。オーバーオールウィンで賞状を見た。14. K-OPクラスはジムカーナでは珍しいレビンを駆った林大河選手が優勝。15. B1クラス入賞の皆さん。16. B2クラス入賞の皆さん。17. PN1クラス入賞の皆さん。18. PN2クラス入賞の皆さん。19. SA1クラス入賞の皆さん。20. K-OPの2位には吉丸裕也選手が入った。21. OPで2位入賞の竹下圭選手。

4台によるSA1クラスはこの最終戦までチャンピオン争いもつれたため、4勝でポイントリーダーの井上洋選手と3勝で僅差のシリーズ2位につける衛藤雄介選手というインテグラ同士の直接対決となった。結果は、井上選手は2本目に1分37秒082を記録したのに対して衛藤選手も1分37秒357までタイムを縮めたが届かず、井上選手が今季5勝目で2年連続のチャンピオンを獲得した。

続く4台によるオープンクラスには、既にPN2クラスで開幕5連勝などの活躍でタイトルを獲得している奥園圭介選手(86)が出走。1本目にミスで出遅れたが、2本目はしっかりま

とめて優勝した。最後に行われたビギナークラスである恋の浦カップクラスにはマシンが異なる4台がエントリー。レビンで参加した林大河選手が排気量の差にも負けず1分49秒156で優勝を果たした。

この日は10月末に北海道・新千歳で開催されるJAFカップオールスタージムカーナに九州代表として参加する選手への援助金(カンパ)が募られ、JAFカップに参加するその関岡、貞光、奥園の3選手が挨拶し、お礼を述べた。今回、主催も務めたJMRC九州ジムカーナ部会長の佐藤裕氏は「こんなカンパを募っている地区は恐らく九州地区だけではないでしょうか？

今回は北海道への遠征ですから、どうしても出費がかさみます。そんな中、一緒に一年間ライバルとして戦ってきた選手が『頑張ってこいよ』と協力してくれたんですよ。そんなところが九州の温かさでしょう」と笑顔を見せた。

大会は事故もなく終了し、和気あいあいとした表彰式も終えて、一年間のシリーズは幕を下ろした。2019年も新たなバトルが展開されることを期待したい。

なお九州モータースポーツ表彰式、JMRC九州新年総会は、1月20日にホテルクラウンパレス北九州において開催される予定だ。